

		( 情報A ) シラバス 2 単位	普通科 第 1 学年	1・2・3・4	組	
年間の到達目標		1. 情報の収集・処理・発信などの情報活用能力を身につける。 2. 自ら課題を見つけ、解決していく能力を身につける。 3. 情報を主体的に活用し、情報社会に主体的に参加する態度を身につける。 4. コンピュータの特性や情報通信ネットワークの仕組みなどの基礎知識を習得する。				
教科書・副教材等		061 最新情報A(実教出版)・30時間でマスターOffice 2007(実教出版)				
学期	月	学 習 内 容	学習のねらい			
4	4	オリエンテーション	中学までの学習、経験等、生徒の既得技能・知識の調査を行う。			
		序 情報とわたしたち	コンピュータの起動や終了方法を習得する。 PC室の利用方法を理解する。			
	5	第1章 情報の活用とコンピュータ	情報とは何かを様々な例を示しながら理解する。			
		1節 情報社会と情報の表現	携帯メールと関連付けながら電子メールの仕組みを理解する。 Webの簡単な仕組みと情報収集のための検索方法を理解する。			
	中間考査範囲		実施しない			
	6	2節	問題解決の工夫	文章を作成し共有フォルダに保存して必要な操作を習得する。 ワープロソフトの使い方を理解する。 ワープロソフトで情報作成と情報統合と情報活用を行う。		
			3節 情報の伝達	情報を判断し取舍選択することの必要性を理解する。 さまざまな情報伝達的手段と特徴について理解する。 表現の正確性、視覚的要素、単純化、配色の工夫について学ぶ。		
期末考査範囲		実施しない				
〔備考〕 提出期限をすぎた提出物は原則として評価しません。やむをえない事情の場合は必ず授業担当者に申し出てください。						
9	9	第2章 ネットワークの活用	表計算ソフトの使い方を理解する。			
		1節 情報の検索と収集	表計算ソフトで情報作成と情報統合と情報活用を行う。 わかりやすい情報伝達のための要件について理解する。			
	10	2節	情報の受発信と共有	レイアウトを考え、表やグラフを用いた説得力のある表現を学ぶ。 情報伝達の目的や対象の明確化について理解する。 テーマに応じて情報を収集し、整理して発表する。		
			中間考査範囲		実施しない	
	11	3節	ネットワーク利用の心がまえ	情報のデジタル化について理解する。 状況に適した情報伝達の工夫について理解する。		
			第3章 マルチメディアの活用	ハードウェアとソフトウェアについて理解する。 歴史的な背景と現状を理解する。		
	期末考査範囲		実施しない			
〔備考〕 提出期限をすぎた提出物は原則として評価しません。やむをえない事情の場合は必ず授業担当者に申し出てください。						
1	2節	マルチメディア作品の制作	著作権やメディアリテラシーについて理解する。			
		第4章 未来に向けて	携帯電話やネットを使った生活スタイルを考える。			
	2	1節 メディアの発達としくみ	コンピュータ犯罪やデジタルデバイドの問題を考える。			
		2節 コンピュータとネットワークのしくみ	情報の信憑性と信頼性について理解する。			
3	3節 ITがひらく情報社会	テーマに応じて情報を収集し、整理して発表する。 パスワードやコンピュータウイルスやワクチンや暗号化などセキュリティを学ぶ。				
学年末考査範囲		実施しない				
〔備考〕 提出期限をすぎた提出物は原則として評価しません。やむをえない事情の場合は必ず授業担当者に申し出てください。						
評価の観点	内 容		評 価 方 法			
関心・意欲・ 態度 ( 25 ) %	情報や情報社会に関心を持ち、身の回りの問題を解決するために進んで情報及び情報技術を活用し、情報社会に主体的に対応しようとする。		授業への取り組み姿勢 レポート・作品等の提出物 実技テスト・プレゼンテーション			
思考・判断 ( 25 ) %	情報活用の方法を工夫したり、改善したりするとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断をする。		授業への取り組み姿勢 レポート・作品等の提出物 実技テスト・プレゼンテーション			
技能・表現 ( 25 ) %	情報の収集・選択処理を適切に行うとともに、情報を目的に応じて表現する。		授業への取り組み姿勢 レポート・作品等の提出物 実技テスト・プレゼンテーション			
知識・理解 ( 25 ) %	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、現代社会における情報の意義や役割を理解している。		授業への取り組み姿勢 レポート・作品等の提出物 実技テスト・プレゼンテーション			
〔担当者からのメッセージ〕						
コンピュータの技能の習得はもちろん、コンピュータを活用して様々な情報を収集し処理し発信することができるようになってもらいたい。情報化の光の面と影の面を理解し、将来、君たちの生きていく力の1つとして情報の授業を活用してほしい。						